

令和3年度

事業活動報告書

社会福祉法人 グラン・ヘリオス会

令和3年度 事業報告

令和3年度 施設目標

「地域福祉の拠点となり思いやりの心で笑顔の暮らしに繋がります」

令和3年度は、新型コロナウイルスの対応に追われる1年でありました。その中、不安な気持ちを抱え生活する入居者・利用者様に対して、職員一人一人が思いやりの心で気持ちに寄り添ったケアをすることで、安心した暮らしに繋げることが出来ました。生活環境面におきましても、今出来ることを議論しながらより良い介護サービスが提供できるように取り組んで参りました。

引き続きご入居者様、ご利用者様が安心して快適な生活を提供できるよう取り組んで参ります。

【特養部門】

新型コロナウイルス感染症対策について

- ・新型コロナウイルスワクチン接種（入居者・職員）
1回目：ファイザー製 5/15 5/29 6/12
2回目：ファイザー製 6/5 6/19 7/3
3回目：モデルナ製 1月下旬～2月 全8回
- ・定期的なPCR検査の実施
- ・一斉メールシステム導入
- ・感染シミュレーションの実施 予防着の着脱訓練の実施
- ・ガラス越し面会・リモート面会の実施
- ・本館2Fにて1/22～2/14の3週間において職員6名・入居者10名合計16名のクラスター発生
マニュアルのバージョンアップと初動体制の確立、必要物品の備蓄等、次回に繋がる体制を強化

排泄ケアについて

- ・排泄委員会にてオンラインによる研修会を実施（隔月全6回）
- ・オムツ排泄ゼロの取組みとして、トイレでの排泄誘導（昼間のみ、座薬時のみを含む）
従来型38名（従来型52名 73%） ユニット型33名（ユニット型48名 68%）
一人一人に適した排泄ケアの提供とコスト削減に繋がっている

稼働率

- ・従来型 93.9% 48.8名（前年度96.5% 50.2名）
- ・ユニット型 96.2% 46.2名（前年度95.2% 45.7名）
- ・退所者数 本館25名 新館10名 合計35名（前年度 本館16名、新館16名 合計32名）
退所者のうち21名がターミナルケア、14名は急変等により医療機関へ入院
- ・タイムラグ 本館 26日（前年度12日） 新館 27日（前年度13日）

施設のイベント

新型コロナウイルスの影響にて外出、ボランティア、大人数での集団イベントの中止
感染対策を行い少人数、フロア単位等でイベントを実施

- ・10/6 納涼祭の実施（入居者・職員のみ）
- ・敬老会の実施（各フロアにて）

【在宅部門】

- ・地域包括・居宅・デイサービス・ショートステイとの月1回定例の在宅部門会議の実施
- ・デイサービスの利用が1日平均21.6名 62.8%（前年度21.5名 稼働率61.5%）
- ・ショートステイ利用が1日平均7.6名 95.4%（前年度7.0名 稼働率87.6%）

【法人部門】

- ・理事会の開催 全5回（5/25、6/22、10/12、12/7、3/22）
- ・評議員会の開催 全1回（6/22）
- ・評議員選任解任委員会の開催（5/25）
- ・埼玉県、鴻巣市における実地指導（8/11）
- ・埼玉県 SDGs パートナー登録

委員会活動

- ・分野別専門的に議論し各部署会議にて検討
- ・各部署より検討意見を持ちより具体的な検討・実施

苑内設備更新

- ・本館照明設備更新（LED化）
- ・本館玄関前舗装及び排水溝工事
- ・本館エレベーター付加機能設置工事
- ・厨房温冷配膳車2台

【人材育成・人材確保】

- ・苑内での研修会を20回行い、平均12名、延べ250名が受講
- ・第14回事例報告会では、9部署が発表し34名参加
- ・埼玉福祉専門学校から介護福祉士科2名の実習生受入れ
- ・10月に特定技能外国人1名を採用（ベトナム）
- ・職員9名（20代・30代中心）を1年通して研修を実施（人間力・モチベーション等）

令和3年度 委員会・会議評価

委員会	委員長	評 価
広報委員会	中林旭	今年度の目標は概ね達成できていた。次年度は今年度のホームページ更新を踏まえて、伝わりやすく目に留まる記事を作れるように委員会で議論していく。広報誌の発行も遅滞なく行え、ホームページ更新も、月1回のペースで更新できて良かった。
イベント委員会	進藤	コロナウイルスにより中止となってしまう事が多々あった。外出や行事が行えず、それでも入居者様に喜んでもらえるようにと計画した。敷地内だけでもと外に出てもらい、入居者様に喜んで頂けたので良かった。来年度は外出できるよう願っている。
給食委員会	荻野	今年度もコロナウイルス発生によりイベントや外出の制限が続いたため、季節感ある食材や献立を取り入れ喜んで頂けた。今年度、残食や検食簿を注意深く確認し、献立の見直しを行ったことにより、昨年より食品の廃棄を減らすことが出来たため今後も継続し、より良い食事提供を行っていききたい。
衛生委員会	岡村直	今年度も新型コロナの影響や当施設でのコロナ感染により健康診断の実施時期が例年より遅れたが感染対策を徹底した中で、入居者含め、予定していた回数を年度内に実施することが出来た。予防接種において、年1回実施インフルエンザワクチン接種の他、新型コロナワクチン接種も年度内において希望する入居者及び職員へ3回の接種を行った。 埼玉県が実施するPCR検査を有効活用し、コロナ発生以降週1回実施する等職員の健康管理の強化に努めた。 コロナ感染、或いは感染疑いの都度、臨時衛生委員会を開催し、職員・入居者の濃厚接触者の洗い出し、感染フロアの勤務調整や職員支援手配、デイやショートの一時的停止・規模縮小について、ゾーニングの確認や必要物品の調達、面会制限、また換気やアルコール消毒をはじめとする感染症対策全般について話し合った。 コロナ禍において今年度も通常面会が制限され、一時的に面会中止、或いはガラス越しでの面会を中心とせざるを得なかったが、各フロア工夫を凝らし長寿新聞等によりご家族への情報発信を行っていた。 産業医による苑内勉強会も感染対策を徹底した上で、予定通り多くの参加者のもと開催することが出来た。 感染予防具着脱訓練や感染発生時対応訓練等を実施し、万々に備えたが、実際マニュアル通りにはいかず体験したことを生かし、より具体的に分かりやすく、使えるマニュアルにしていきたい。
防災委員会	藤田	防災訓練を予定どおり2回実施し、6月の際は出火場所を知らせず実施したが、スムーズに行かなかった。 今年度より一斉メールの運用を開始し、職員並びにご家族へ情報発信を頻繁に行った。 集団訓練について、次年度は周辺住民の参加も促し、また施設独自のBCP作成にも着手していく。
感染症対策 医療的ケア委員会	中田	今年度は、吸引の実践講習会や高田先生による勉強会など、実際に出来ずに終わってしまった。 コロナに関してはクラスターとなったが、1フロアのみで済んだ事は、本当に良かったと思う。
排泄委員会	古市	オムツ排泄ゼロに向け、本館38名・新館33名がトイレで排泄(坐業時のみの誘導も含む)ができています。各フロア利用者に寄り添い、一人一人に適した排泄ケアに心掛けている。オンライン研修に参加し、職員への伝達ができ、心身の状況に適したケアに繋がっている。
リーダー会議	古市	コロナ禍での諸問題もあり、定例会内容とする介護の実践に向けた検討・改善について、計画通りに話し合うことが難しい月もあった。リーダー間における各部署の問題については、情報共有し、方向性をもって協議できた。
在宅会議	藤田	今年度は、新型コロナ感染拡大予防のため在宅会議を中止とすることがあった。また、会議参加者が突然の訪問等が入り参加できずメンバー不足のため、中止とすることもあった。今年度も事例検討現場で起きた問題について話し合い、考察まで考えられた。 各在宅部門の情報共有はその都度でき会議でも取り入れることはできたが、常に情報の共有の必要性を感じた。
入所判定委員会	島田	今年度では新館、本館あわせて31名の退所があった。特例での入所が2件(要介護度2の方)有り、独居生活の方で入所判定会議の審議にて適切な取扱いが出来た。入所順位の評価基準についても御家族からの聴取や資料を基に取扱い規定に則り行っている。 待機者下位の方について現況が把握出来ていない方もいるため郵送などで把握できるよう工夫する。
苦情処理委員会	島田	今年度、特養の苦情については、コロナ禍であるが故に入居されているご家族とのコミュニケーションが上手くいかず誤解を招いてしまった事案であった。お話ししたいことについては面会後にご家族のみに説明する配慮をし改善された。 また、デイサービスの苦情については御家族の気持ちも考えお話しするタイミング等、相手を思いやりながら接していく事を学んだ。 意見箱に投書が無いので気軽に記入できるよう改善していきたい。
身体拘束廃止 委員会	川島	毎年、同利用者様についての議題・案件について話が上がるが、フロアにおいて工夫をたくさん行っていた。 今年度は、拘束着等を使用することなく終了した。職員皆様の協力があった結果だと感じている。
虐待防止・ 接遇委員会	野本和	コロナ禍で今年も1年過ぎていった。面会も制限されている中では、言葉遣い、声かけ等、更なる努力が必要と思う。 各部署其々が目標を意識して日々の業務に取り組んでもらいたいと思う。
研修・ 教育委員会	古市	福祉施設職員としての必須研修がほぼ中心となり、17項目 他3、出席者平均12名、計250名出席。動画配信も多く、伝達ではなく直接参加できた。苑内事例報告会も第14回となり、9部署の事例を共有し、学ぶことが出来た。
事故防止対策 委員会	小野関	今年度コロナ禍ということも影響しているのか、今まで殆ど報告がなかった利用者間事故の報告が多数発生していた。 また、表皮剥離の事故報告も多く発生していた。報告内容で特徴的なのはすでに剥離していたという報告が多く、事故原因が特定できないことも問題と考える。ヒヤリハットから事故へ発展する危険性があったとしても事故防止にと繋がる為の対策もできない検討内容もあったが、他部署にも周知することから施設全体の問題として捉えることができ、事故報告が担当者を攻めるものではなく施設全体で考える為の仕組みであるという意識の醸成と繋がったと考えている。
臨地委員会	河野	埼玉福祉専門学校より2名の実習受け入れを行ったが、施設内コロナ感染により途中で中止となった。
四半期会議	牧	今年度より各部署管理者・リーダー等が一堂に会し、年4回3か月ごとの各部署における実績や実施内容等の報告会を行った。 荻野業務執行理事にもご出席・ご意見を頂きながら、前年度との比較の中で見いだされた課題や現状の分析を各部署における管理者レベルの職員が共通認識し、他部署の成功事例や悩み等を共有できた。今後も連携しながら法人の運営をより良くしていきたい。
経営会議	牧	新型コロナ感染拡大予防のため経営会議が中止となることがあった。今年度は監査もあり、事前準備を行うと共に、現状の運営の再確認ができ継続していくことを再認識出来た。毎月の営業月報により前月の稼働率等を振り返り、実績分析、各部門の情報共有ができ経営状況等の理解ができた。経営状況を理解し、売上、実績の安定に結び付くような行動をしていく。

令和3年度 各部署の評価

部署名	目標
本館2階	<p>コロナのクラスターもあり、通常の毎日を取り戻すことはできなかったが、笑顔が見られるよう声かけ等、行うことに努めた。</p> <p>①気持ちに寄り添い優しい声掛けを心掛けて行動するよう努めた</p> <p>②感染対策で制限のある中、出来る限り季節に合った行事やフロアの飾り付けを入居者様と行うことが出来た</p>
本館3階	<p>今年度もコロナ対策等、感染に注意し過ごすことができたと思う。長寿新聞も継続することができ、ご家族様に「写真を送ってもらい安心できています」という言葉を頂き、職員の励みにもなっている。勉強会・研修等へ積極的に参加できたら良かったと思う。新入職員も入り、うまく回っていないところもあり、情報共有がしっかりと行えないことがあった。来年度はしっかりできるようにと思う。</p>
新館1階	<p>気持ちが落ち込んでいる入居者が多く見られ、担当が中心となり傾聴することができたと思う。介護度が下がり、メンタルケアが必要となり、職員間で状態の共有ができた。担当職員が一人で悩まず他職員がフォローしていた。今年度も感染対策を取り、フロア行事を見直し変更した。</p>
新館2階	<p>大きな目標である「入居者の思いを尊重できるように」スタッフ其々が考え対応することができていたと思うが、住みやすい暮らしという視点はとても難しく、実践することができていたのか？については評価ができなかった。多職種との連携は、看護師・ケアマネ・その他連携し、日々相談や報告することができ、良い支援に繋がった。清潔なフロア・環境作りには、十分に気を付けていたが、楽しみがある環境作りは、コロナもありできていなかったと思う。明るい雰囲気作りのためには、声のかけ方等に注意し、職員の対応による明るい雰囲気作りにも少しでも近づけるよう、努力した。</p>
新館3階	<p>コロナウイルス感染症対策により、ワーカー会議や行事の中止が見られた。ワーカー会議等で、其々に合ったケアを話し合い、変化に対応できていたと思う。季節を感じるフロア一掲示物は季節毎に行っていた。行事も入居者に喜んでいただけた。来年度もコロナウイルス感染対策を行いながら、入居者皆様が楽しんで下さる行事を行っていききたい。</p>
新館4階	<p>入居者の立場に立って考えられる支援ができる。立場に立って考えるというところで、入居者や職員によってムラができてしまった。日常のケアに追われ、入居者との会話の時間を持つことが難しい状況であった。ケアについて話合う際に「〇〇の時は××になっているよね」など、各職員がケアの中で状態を把握して、その情報に基づいて検討すること等ができています。職員同士で意識付けができています。</p>
デイサービス	<p>今年度もコロナ禍により、外出の機会がなくなり、屋内での行事となった。月毎に職員がイベントを企画し利用者を楽しんでもらおうと様々な企画を計画・実践し、利用者に関わりを多く持っていた。昨年に引き続き、コロナ禍での感染予防の消毒、検温、換気等意識し対応して今後も予防に取り組んでいく。今年度は、随時他事業所へ空き情報の発信を行い、状況に応じて対応したが、結果が伴わず利用者数減になってしまった。引き続き、他事業所へ空き情報の発信を行い、状況に応じ対応していく。</p>
事務	<p>コロナウイルスの感染の終息はなかなか見られず、昨年度末よりPCR検査の提出が定期的に行われることとなった。コロナ対策や対応の業務が、日常の業務として新たに視野に入れていく必要のなる1年となった。委員会を中心に危機管理を行い、シミュレーションや備品の備えを行っていた事で、実際の発生時に有効となった。引き続き、備品の備えは意識していきたい。備品等の感染対策に伴う補助金等の申請や処遇改善金の申請も情報を収集し行うことができた。今年度より四半期会議も加わり、10月より技能実習生の雇用なども始まった。来年度に向けて定着へと繋げていきたい。</p>
看護	<p>今年度はコロナの事で殆ど終わってしまった感じである。実際に1月末から、2月上旬にかけてクラスターが発生してしまい、終息するまでの間、医務としてケアワーカーと協力し、人力を尽くしたが、重症者が出るのではないかと、とても心配だったが、そのような事にならず、その点は評価に値すると思う。</p>
生活相談員	<p>平均稼働率 本館93.9% 新館96.1% ショートステイ95.2%となった。入所申込数は現状、本館35名、新館20名となっている。特養部門については退所が本館25名 新館10名有り、非常に多かった年度であった。そのうち看取りについては17件であった。新館については年度後半から退所、入院もなく安定しているが本館については年間通して退所、入院が途切れない状況であった。また入所したばかりの方が短期間で入院、退所となるケースが特徴的であった。タイムラグが大きく目標を割ってしまうのも、空きをロングショートで活用するか、もしくは入所となるまでショートをご利用いただく形であったのが要因と考える。ショートステイについては入所のため定期ご利用者が減ってしまったり、コロナ陽性発生があり御利用休止した事が稼働率を下げてしまう要因となった。また、相談員1名が5月に異動となり、令和4年1月には1名補充体制で行っていたが3月には離れる形となり安定した活動ができなかった。</p>
居宅	<p>新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から細心の注意を図り、訪問・相談業務を行ってきた。訪問事体を拒まれ電話でのモニタリングを行う利用者が多く、更新にてサービス担当者会議開催を断られる利用者・介護者も少なくなかった。地域ケア会議や地域推進会議が蔓延防止等にて中止となった。当の利用者がショートステイ中に感染したり、デイサービス・ショートステイがコロナ陽性者で閉鎖や人数制限等となり、自宅に籠る利用者もあった。令和4年度は一日も早くマスクを外した生活を願っている。</p>
介護支援専門員	<p>①入居者様にはカンファレンス前後に心身状態の確認や生活に対する意向の確認を実施、ご家族には今年度もコロナの影響を受けて来苑される機会が減った為、電話連絡する際や面会の後等にお話を伺う等の対応をするよう心掛けた。②個々の入居者の状態を関係職員と情報共有し、状態に合ったケアができるように対応した。特に看取りケアの際には、職員と家族との情報交換を行い、本人と家族の意向に副ったプランを作成し、看取りケアを実施した。③カンファレンス後には速やかに家族へ計画書を送付できるよう心掛けたが、必要な書類が揃うまでに日数がかかる場合があった。また、介護保険更新中で審査会の日程が遅れている場合には暫定計画書を作成し、実施開始日までに家族へ送付できるようにした。</p>
地域包括	<p>新型コロナ蔓延のため、8月に緊急事態宣言、1月から3月にかけて蔓延防止宣言が発動され、感染予防のため、ネットワーク会議2回、文書開催。地域ケア会議2月中止。介護者教室・交流会が1月から3月に延期になった。4月に社会福祉士1名入職、6月に社会福祉士1名異動。11月に主任介護支援専門員入職。職員の入れ替わりがあったが、職員が増員され、相談業務が安定して提供できるようになった。</p>